



認定特定非営利活動法人環境パートナーシップいわて
ニュースレター第31号 2019.1.1

「東北 ESD フォーラム in 岩手」開催される

学びあい、広げよう（Education）, 持続可能な世界へ向かって（Sustainable Development）を共通テーマに、平成 30 年 12 月 21 日（金）アイーナ 4F 県民プラザをポスター展示会場とし、8F 812 会議室をセミナー会場に、「東北 ESD フォーラム in 岩手」が開催されました。8 団体により構成された東北 ESD フォーラム実行委員会が主催者となり、ESD/ユネスコスクール・東北コンソーシアムが共催し、東北地方 ESD 活動支援センターと環境パートナーシップいわてが運営を担う形での開催でした。

県内外から日頃より ESD の普及、啓発、実践活動に取り組む団体、個人ならびに ESD と関連し、2015 年に国連で採択され、近年その認知度を急速に高めてきた SDGs に強い関心を寄せる自治体、企業、環境保全団体、教育関連団体、NPO、個人など、250 名余りの参加があり、ESD と SDGs の東北における今後の進展に向け、活発な意見と情報交換が行われ、会場は熱気に包まれました。

この日基調講演を行ったのは、株式会社伊藤園顧問の笹谷秀光氏です。笹谷氏は、東京大学法学部卒業後、農林水産省、環境省、外務省などで 31 年間の行政経験を積んだ後、民間会社の伊藤園に入り、知的生産部長、経営企画部長、取締役常務執行役員を歴任されました。長年にわたる行政経験と 10 年間の民間でのビジネス経験を活かし、企業の社会的責任、地方創生などのテーマに一貫して取り組んで来られました。特に、企業ブランディングと社員士気の向上を通じて、企業価値を高めるための理論と実践（CSR、CSV、SDGs などの応用）について、アドバイザー、コンサルタント、講演などで、現在、幅広くご活躍されています。

今回は、東北 ESD フォーラム in 岩手実行委員会の要請に快く応じて下さり、盛岡でのセミナー実現の運びとなりました。基調講演のテーマは「SDGs を活用した地方創生・日本創生」であり、この日集まった多くの聴衆に対し、機知に富んだ意義深いお話を数多く展開されました。

野澤日出夫 実行委員長・開催挨拶

開催にあたり、実行委員長を務めた環境パートナーシップいわて野澤日出夫代表理事が挨拶を行いました。

「年の瀬も押し迫り、またお寒い中、東北 ESD フォーラム in 岩手を、ここ盛岡で開催いたしました所、北海道を始め東北各地から多くの皆さま方にご参加を頂きまして有難うございます。このフォーラムを、単なる打ち上げ花火にすることなく、これを契機にこの活動を東北全般に広げて、持続可能な社会づくりに欠かせない人材育成を継続的に展開する事が求められています。その為、国・県・NPO・企業・大学など多様な団体で構成した実行委員会を結成して、今回のフォーラムを企画し開催いたしました。

世界は、2015 年以降明確に正しい方向に舵を切りました。

一つは、「SDG s・持続可能な開発の為の目標」(ご存知の通り 17 のゴールと 169 のターゲット)であります。そしてもう一つは待った無しの地球温暖化対策「COP21 パリ協定」の世界の約束です。

その目標は明確に定められ、いずれも「持続可能な心地よく豊かな社会」を構築するために、世界中が取り組むべき事であり、新たな産業革命であります。

それらを達成して行くために、欠かせない事は、将来の目標に向けて、考え・調整し・企画し・実行し・目標達成するための人材であります。

すなわち、持続可能な開発目標「誰一人取り残さない」為の教育・・・、それが ESD であります。

そのような思考を持てる人材の教育は急務であり、待った無しの状況下にあります。



開催挨拶に立つ野澤日出夫実行委員長

今般、東北地方に於いて ESD の学びの「プラットフォーム」を目指して本フォーラムを開催する事に致しました。この目標に向けた教育は、単に教育者のみに限定するものではなく、志のある多様な方々との連携こそが不可欠となります。

基調講演を快くお引き受け下さいました笹谷秀光先生には、「SDG s の取組みが、人口減少の続く日本・地方創生に欠かせないことを・・・」また事例紹介では、日本最大のぶな林を持つ「ユネスコ・エコパーク」、そして地域を再認識する「只見学ガイドブック」などの編纂などにあたられた、福島県只見町の齋藤修一元教育長さんに遠路お越し頂きました。

産業界からは、地球温暖化防止にも積極的に取り組んで居ります岩手県中小企業家同友会の菊田哲事務局長さんに、取り組みの一部をご披露いただきます。

また、正に次世代を担う若者たち、遠野緑峰高校の生徒さん達の地域経済・地域活性化を重視した素晴らしい活動をご紹介します。本日のフォーラムが、皆さま方がこれからの ESD をどの様に効果的に展開して行くかを考える為の、多くのヒントが得られる有意義なフォーラムとなります事を願って居ります。本日のフォーラムに向けてお骨折り頂きました多くの皆様方に、この場をお借りし感謝申し上げ、開会にあたり挨拶と致します」。

東北 ESD フォーラム in 岩手 プログラムの概要

開催挨拶 野澤日出夫実行委員長

来賓挨拶

東北地方環境事務所 小沢晴司所長

岩手県環境生活部 大友宏司部長

文部科学省国際統括付専門官徳留丈士氏

フォーラム主旨説明・ESD、SDGs 概要

東北 ESD センター 鈴木美紀子

基調講演 伊藤園顧問 笹谷秀光氏

フリーセッション

アイーナ 4F ポスター会場 見学

事例紹介①「共学、共育、共生の企業づくり」岩手県中小企業家同友会 菊田哲事務局長

事例紹介②「遠野の宝ホップ和紙 強靱和紙の開発と新たな利用価値を求めて」

遠野緑峰高等学校

事例紹介③「持続可能な地域を担う人材の育成 ユネスコスクールを通して」

只見町教育委員会齋藤修一元教育長
クロージングセッション

渋谷晃太郎岩手県立大学教授

市瀬智紀宮城教育大学教授

閉会挨拶

白幡勝美 ESD/ユネスコスクール・東北
コンソーシアム副会長

- ・ぬくまる食堂
- ・株式会社環境整備
- ・一般社団法人岩手県産業廃棄物協会
- ・遠野緑峰高校
- ・岩手県立大学総合政策学部
- ・気仙沼市立面瀬小学校
- ・いわきおてんと SUN 組合
- ・岩手県
- ・東北地方 ESD 活動支援センター
- ・環境パートナーシップいわて



ポスター発表・参加団体

- ・岩手県立遠野緑峰高等学校
- ・三陸ジオパーク
- ・岩手県ユネスコ協会連盟
- ・環境カウンセラー協議会
- ・岩手県シェアリングネイチャー協会
- ・イーエヌ大塚製薬株式会社
- ・株式会社ジャパンセミコンダクター
- ・ニッコー・ファインメック株式会社
- ・株式会社共立精工



大勢の来客で賑わった 4F 県民プラザのポスター会場

基調講演 笹谷秀光氏
「SDGs を活用した地方創生・日本創生」
株式会社 伊藤園顧問
CSR/SDG コンサルタント

笹谷秀光氏の基調講演は、配布された PPT 資料の順番に従わず、さまざまなデータを駆使し、縦横無尽に映像を組み合わせたテンポの速い講演でした。与えられた 1 時間をフルに使い、聴衆にさまざまなヒント、多くの感銘を与えました。その概略をお伝えします。

・2014 年は ESD 元年、2018 年は、SDG s 実装元年

パリ協定の採択が 2015 年である。同時にこの年は、国連が SDGs を採択した年にもあたる。同じくして持続可能性をめぐるタイムラインが設定された。世界にとって極めて意義ある年になる。SDGs は 2030 年を目標年とし、「誰一人取り残さない」社会の実現を目指し(=人間の安全保障の理念を反映)、経済・社会・環境をめぐる広範な課題に、統合的に取り組む必要がある。

世界が合意した持続可能な開発目標の達成のため、各国は叡智を結集しなければならない。日本においては 2020 年の東京五輪・パラリンピック大会、2025 年の大阪万国博覧会の開催がある。5 年毎に大きなイベントが実施され、持続可能性の共通言語となる SDGs を頻繁に使う機会となる。

・SDGs とは何か

SDGs の前身にミレニアム開発目標 (Millennium Development Goals: MDGs) があつた。2001 年国連で策定。2000 年採択の「国連ミレニアム宣言」と、1990 年代の主要な国際会議で採択された国際開発目標を統合したものである。発展途上国

向けの開発目標として、2015 年を期限とする 8 つの目標が設定された。MDGs は一定の成果を達成したが、未達成の課題も残された。



一定の成果を達成したが、未達成の課題も残された。

SDGs は、2015 年 9 月国連サミットで

全会一致で採択。先進国を含む国際社会全体の開発目標として、2030 年を期限とする包括的な 17 の目標を設定した。目標の下に、更に細分化された 169 のターゲットがある。全ての関係者(先進国、途上国、民間企業、NGO、有識者等)の役割を重視する。

17 の目標のうち、NPO が大事にしなければならないのは 9 番の「産業と技術革新の基礎をつくろう」である。強靱(レジリエント)なインフラの構築、包括的かつ持続可能な産業化の促進とイノベーションの推進が必要である。NPO は企業と市民のつなぎ役を担わなければならない。

・5 つの P



SDGs の 17 の目標を分かりやすく整理したのが 5 つの P である。People, Planet, Prosperity, Peace, Partnership の頭文字をとった。

人間、地球、豊かさ、平和のための目標であり、国際社会のパートナーシップによ

り実現をめざす。

人間 (people) 人権の尊重、平等で潜在能力を発揮できるようにすること。貧困と飢餓を終わらせ、ジェンダー平等を達成し、すべての人に教育、水と衛生、健康的な生活を保障する。

地球 (planet) 責任ある消費と生産、天然資源の持続可能な管理、気候変動への緊急な対応などを通して、地球を破壊から守る。

豊かさ (prosperity) すべての人が豊かで充実した生活を送れるようにし、自然と調和する経済、社会、技術の進展を確保する。

平和 (peace) 平和、公正で、恐怖と暴力のない、世界をめざす。

パートナーシップ (partnership) 政府、民間セクター、市民社会、国連機関を含む多様な関係者が参加する、グローバルなパートナーシップにより実現をめざす。

・経団連が示す Society5.0 for SDGs



経団連は、SDGsとSociety 5.0を結びつけた。これはAIやIoT、ロボット、ビッグデータなどの革新技术をあらゆる産業や社会に取り入れることにより実現する新たな未来社会の姿である。狩猟社会（Society 1.0）、農耕社会（Society 2.0）、工業社会（Society 3.0）、情報社会（Society 4.0）に続く、人類社会発展の歴史における5番目の新しい社会の姿となる。未来社会では、健康・医療、農業・食料、環境・気候変動、エネルギー、安全と防災、人やジェンダーの平等などの様々な

社会的課題の解決とともに、国や人種、年齢、性別を越え、必要な人に、必要なモノ・サービスが、必要なだけ届く快適な暮らしが実現する。

・ESG投資とSDGsの関係

社会的課題解決が事業機会と投資機会を生む

GPIF（年金積立金管理運用独立行政法人）は、ESG投資とSDGsの関係を次のように整理した。

SDGsの大きな特徴は、民間企業を社会課題の解決を担う主体と位置付けている点にある。企業が17の項目のうち自社にふさわしいものを事業活動として取り込むことで、「共有価値の創造」（CSV：マイケル・ポーター教授らによって提唱された Creating Shared Value：共有価値の創造）が生まれる。ひいては企業価値の持続的な向上・長期的な投資リターンの拡大につながる。ESG投資と投資先企業のSDGsへの取組は、表裏の関係にある。



・ESG時代のCSR再考とCSV・SDGs

ESG（Environment（環境）、Social（社会）、Governance（統治・ガバナンス）の頭文字）企業の社会的責任CSR（corporate social responsibility）が再考される時代を迎えている。慈善活動（フィランソロピー）CSRから本業CSRへの移行である。本業CSRとは社会対応力のことであり、CSVの創造である。共有価値は、

社会価値と経済価値を同時に実現することであり、SDGs と共通の言語に位置する関係にある。

・「モンサンミッシェル」はサステナビリティの好例

SDGs の好例として、世界遺産のモンサンミッシェルがある。フランス・ノルマンディー地方の潮の満ち引きが激しい湾内の孤島にある修道院で、かつては観光客向けに陸と島をつなぐ道路が設けられていた。景観保全と生態系保護のために、2014年潮流に影響を与えにくい橋が架けられ、電気シャトルバスも整備された。

整備には莫大な投資を要したが、島内には巡礼者に伝統的に振舞われてきた名物料理や土産品も豊富にあり、収益額は大きなものがある。これこそ、サステナビリティである。「高価でもオリジナリティあるものには観光客は支出を惜しまない。税収が、景観や生物多様性を守るなどの費用の捻出にもつながっていく」。島内には、年間 300 万人の観光客が訪れる。ネットワーク環境も整備されており、シャトルバスなどとも併せ「伝統的な石造りの街に最先端技術が入るづくり」がある。観光客への利便性も考慮される。最新技術を活用し、伝統・歴史と環境を守ることと観光促進を成り立たせ、未来へつなげる。「社会」「経済」「環境」課題の同時解決を具現化した素晴らしいモデルケースである。



モンサンミッシェルの昔（左）と今（右：EV バス）

・日本にもあった SDGs 「売り手よし、買い手よし、世間よし」

SDGs と同じ仕組みは、古くから日本の企業や組織にもある。「三方よし」の理念である。日本のビジネスの基礎を作った「近江商人」の行動哲学である。「売り手よし・買い手よし・世間よし」の思想は、自分たちの利益のみを追求していないのが特徴であり、SDGs の心髄である。

しかし、三方よしは「陰徳善事（良いことは隠れて行う）」の行動理念とセットとなる。開示や説明責任が求められる現代版に併せた形として、「発信型三方よし」を提案したい。

日本の身近な SDGs は、ゴール 17 番「パートナーシップで解決しよう」も同様である。「岐阜県白川郷の合掌造りで、茅葺屋根を維持するための仕組み“結（ゆい）”に代表されるような、“協働”の仕組みが昔から日本各地に存在する。日本の良い伝統を SDGs と絡め、発信していくことが大切である。

・これからのまちづくり

まちづくりに関連するのは目標 11 番の住み続けられるまちづくりと目標 17 番のパートナーシップである。

これからのまちづくりに重要な考え方は「センスオブプレイス」。まちの個性であり、もうひとつが「シビックプライド」。すなわち、そこに住んでいる市民の誇り。そこに行ってみたいと思わせるものが重要視される。

センス・オブ・プレイス

（その場所を特別と感じさせる何か）

シビック・プライド

（都市に対する誇りや愛着）

事例紹介①「共学、共育、共生の企業づくり」岩手県中小企業家同友会

菊田哲事務局長

岩手県内の中小企業 38,779 社（99.8%が中小企業）の 400 社の起業家が、「よい会社をつくろう！」「よい経営者になろう！」「よい経営環境をつくることをめざそう！」と日夜学び合う経営者団体が、岩手県中小企業家同友会である。県内全域で年間 300 回を超す学び合いの場を設定する。

2006 年から 11 年続く盛岡市立高校、盛岡市内の高校との夏季課外授業。「自分の 10 年ビジョンをつくる」をテーマに話し合う。生徒からは「リーダーにはどんな資質が必要だと思いますか」「社長は何のために仕事をしていますか」など本質に迫る質問が寄せられる。

また、20 数年にわたり開催されてきた新入社員合同入社式・一泊研修会では、県内外の著名な経営者を講師に「何のために働くのか？」「働くとは、目的を成し遂げるために働くことであり、自分の役に立つこと」人間の生きがいと労働について考えるため「人生 10 年ビジョン」を作る作業に取り組む。

新卒予定の学生を対象とした合同企業説明会（2010 年 5 月）では、企業 23 社がブースを設け、学生 230 名が参加。説明会に出る経営者は「地域の事業所の 9 割は中小企業だが、残念ながら学生の皆さんには知られていない。中小企業は地域と共に発展する存在。我われ中小企業は小さくても新しい仕事を無数につくり出していこうと日々努力をしている。だからこそやりがいもある。私達は皆さんに熱く経営理念を語る。学生も思いの丈を全力でぶつけて欲しい。そんな人を企業は待っている」を訴

える。



その翌年に東日本大震災が発生、陸前高田ドライビングスクールを拠点に、支援物資の集約と配送に心血を注いだ。

その最中の 2011 年 4 月 6 日、陸前高田ドライビングスクールにて、2011 気仙支部合同入社式が開催された。大船渡、陸前高田から 4 社、5 名と北海道同友会から岩手に研修で参加する新入事務局員 3 名が、晴れの席に臨んだ。地震で落ちた天井を急遽修理、ドライビングスクールの一室を入社式会場とした合同入社式は、県内各地からの応援も含め、経営者 27 名、報道各社 21 名が集まり、熱気と緊張感に包まれた。田村満代表理事は「今日こうして中小企業家同友会気仙支部として、合同入社式が開催できることに心から感謝申し上げたい。震災直後から全国同友会からの沢山の支えがあったからこそ、ここまで来ることが出来た。皆さんのような若い力があれば、気仙は絶対に復興できる」と挨拶した。

減り続ける人口、進む高齢化、甚大な大震災被害、進めぬ復興と街づくり、中小企業が、ここで踏ん張らなければならない。一社もつぶさない。つぶさせないを復興の旗印にする。

参考にしたい八木澤商店の経営理念がある。①私たちは、食を通して感謝する心をひろげ、地域の自然と共にすこやかに暮らせる社会をつくります。②私たちは、和

の心を持って共に学び、誠実で優しい食の匠を目指します。③私たちは、醬の醸造文化を進化させ伝承することで命の環を未来につないでゆきます。

中小企業同友会の運営の基本方針には、

1. 生きる。
2. くらしを守る。
3. 人間らしく生きる。の3点がある。

中小企業の要諦は人材である。働く人が積極的に自己研鑽に取り組めるよう経営者は、能力開発の機会を確保しなければならない。この理念のもと、エネルギーヴェンデに取り組む先進地ドイツ、オーストリア視察を企画、第1回～5回までに73名が参加した。その中で岩手県中小企業家同友会エネルギーシフト（ヴェンデ）研究会を発足させ、次世代に配慮した地域中小企業発の省エネ、エネルギー自立を目指す。「エネルギーシフト」による新産業の創出と、地域をみつめ主体的に行動する市民の育成を図る活動を続けている。

「共育・共学・共生の企業づくり、地域づくり」が中小企業家同友会の根本を成す。次の3社は、より具体的にその内容をあげる。

- ・信幸プロテック株式会社（矢巾町）
学び合いの土壌づくり
70歳までの人生設計書
- ・岩手日化サービス株式会社（盛岡市）
社員が主体になり、経営指針の見直し
年間を通じて学び合う環境づくり
- ・東日本機電開発株式会社（盛岡市）
欧州視察に5年連続で社員を出す。自主的に手があがる共育

これらの考えの根底には、ユネスコの学習権宣言がある。学習権とは、自ら歴史をつくる主体になることである。

菊田哲事務局長は、ユネスコ「学習権宣言」（抜粋）（第4回ユネスコ国際成人教

育会議（パリ）宣言 1985. 3. 29 を A4 版 1 枚にして配布資料で示し、労働者の基本的権利として「学習権」があることを熱く語りました。

事例紹介②「遠野の宝ホップ和紙 強靱和紙の開発と新たな利用価値を求めて」 遠野緑峰高等学校

遠野市はホップの一大産地。しかし、近年の少子高齢化による担い手不足は深刻であり遠野市のホップ農家は衰退の一途をたどる。「このままではホップ農家が危ない！」「ホップ農家を助けたい！！」「魅力ある農業とは何か？」ここに光をあてる遠野緑峰高校草花研究班のホップ和紙開発プロジェクトの研究結果が発表された。

先輩たちが廃棄されるホップの蔓から繊維を抽出し、世界に類のないホップ和紙の開発に成功した。遠野の財産として農家から期待される。その後の開発により「蔓の資源化」に成功し、現在は毬花に続き、第2の生産物として扱われる。

しかし、年々改善されてはいるものの和紙製作には、化学薬品が大量に使われる。「和紙を作ることで環境破壊になる！」ホップ農家からの指摘が出された。



発表を行う遠野緑峰高校の生徒さん

そこで強靱な和紙の開発と新たな利用価値の挑戦として和紙の可能性にかけた研究を行った。目標は次の3点である。

1. 効率的な無漂白繊維の製作工程を確立し SDGs を見据えた環境に優しいホップ和紙を作る。
2. 強靱な和紙を開発し、利用用途の拡大につなげた商品を地域に普及させる。
3. ホップ農家が中心となる「遠野ホップ和紙を育てる会」に最新の技術を提供し産業につなげ、ホップ農家の生産意欲に貢献する。



生徒たちが開発したブライダル宣伝用アイテム

ホップの蔦の外皮である黒皮を除き、白皮に処理する過程で使う水の利用量を削減する工夫により、コストの削減を実現。紙すきの技法の改良と強度を高めるためグルコマンナンを 2 度塗りする改良を加えた。製品開発としてホップ和紙ちゃんこ、ブライダル宣伝用アイテムとしてのドレスの製作にたどり着いた。

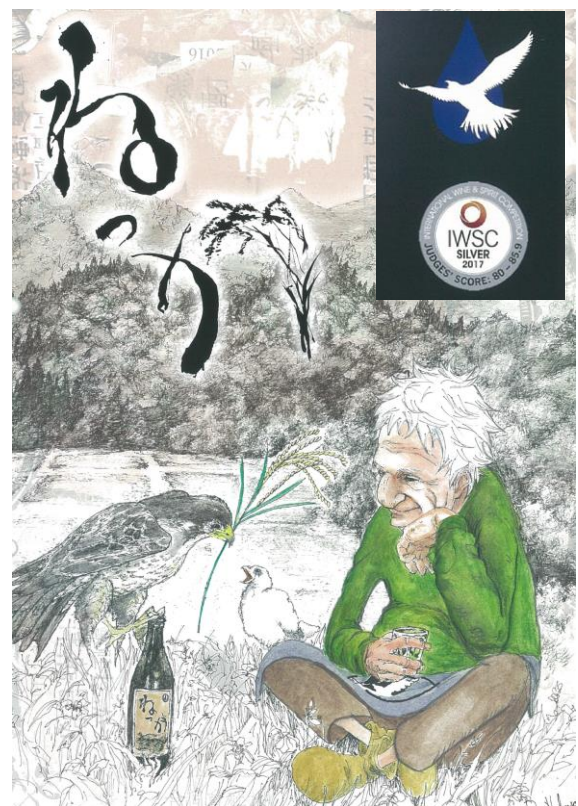
研究の評価として環境大臣賞の受賞、環境省の推薦によるオーストラリア環境研修に至る。

育てる会への技術提供が進み、毎年の売上アップ、遠野の新たな産業として、ホップ和紙は歩み始めた。SDGs の 17 ある目標の 8 項目に該当するまでになり、世界へ PR できる研究に成長している。

事例発表③「持続可能な地域を担う人材の育成 ユネスコスクールを通して」 只見町教育委員会齋藤修一元教育長

持続可能な地域社会をつくる。その結論として皆さんにお見せするのが「米焼酎“ねっか”」です。齋藤修一元教育長がお話の冒頭に取り出したのが合同会社ねっか奥会津蒸留所が作った米焼酎である。

2016 年 3 月に準備を開始、7 月合同会社を設立、12 月に蒸留所を完成させ、2017 年 1 月に製造を開始、4 月に「ねっか」の販売に至る。その過程を解説、教育長が焼酎を作ることの意外性をアピールした。販売を初めてわずか 3 カ月後の 2017 年 7 月には IWSC（インターナショナルワイン&スピリッツコンペティション）からシルバーメダル賞の授与を受ける。米焼酎「ねっか」は一躍世界の舞台に躍り出た。



米焼酎「ねっか」の想いは、「次の世代へ」がメインテーマである



100%自分たちが作った米のみを使用する米焼酎
「ねっか」は日本一小さな蒸留所から生まれる

合同会社が保有する 6ha の圃場と役員が管理する 80ha の圃場で栽培される酒造好適米「五百万石」・「夢の香り」を中心に、米づくりのプロが丹精こめて作った米を使用する。これに福島県が誇る日本酒醸造技術と県が開発した「煌めき酵母」を組み合わせ、香り豊かな米焼酎が誕生した。奥会津や只見町で使われる方言、前向きで、優しい気持ちになれる言葉「さすけねえー（大丈夫）」「ねっかさすけねえー（全然大丈夫）」から商品名を得た。

只見町の現状は、少子高齢化が進行する日本の地方の現状そのもの。このまま行けば、将来自治体消滅の危機にある。地元の学校を出ても働く場所がない。これを打開するには、子どもたちが誇りに思う産業がなければならない。教育長が考えたのは只見から日本、世界に発信するブランドを登場させることであった。地元で働く場があれば、地域が元気になる。学校教育が果たすべき責任は、教育と産業をつなぐ ESD 教育にあると断言できる。

ポスター発表では各団体が自身の活動と SDGs との関連をアピール

今回の東北 ESD フォーラム in 岩手ではアイーナ 8F、812 会議室での講演、事例発表の他、4F 県民プラザにて 19 団体が自身の活動を PR するポスター発表を終日行いました。特に講演会の途中にポスター閲覧の時間を設けたため、多くの参加者が 4F 県民プラザを訪れ、各団体の活動に見入りました。共通した活動を行う団体間では、各担当者が名刺を交換し、日頃の活動内容の情報交換を行いました。特に今回は各団体の活動が、国連で採択された SDGs の 17 の目標のどの番号に該当するかを団体名の下に示したため、見る者にとっては活動内容が具体的に何を指すものか分かりやすい形となりました。SDGs の番号の 1 つを掲げた団体もあれば、2 個、3 個、4 個と掲げる団体、中には 15 個を掲げ、団体の活動理念、活動内容と SDGs の関連を大いにアピールしました。



団体名の下に該当する SDGs の番号を示す(上)



SDGs の 17 目標を参加者に告知するパネル(左)

異色の活動を展開する 「ぬくまる食堂」

19 団体の活動の中でも多くの人々の関心を集めた団体のひとつに「ぬくまる食堂」があります。

ぬくまる食堂は平成 30 年の 5 月にオープンした花巻版の「こども食堂」です。花巻ロータリークラブが主催し、花巻市社会福祉協議会が共催、株式会社共立精工が事務局となって運営されています。毎月第 2、第 4 火曜日の 15:30～19:00 までの時間帯に無料で開催されます。



子どもたちが気軽に集まり、手作りのご飯をいっしょに食べたり、遊んだり、宿題をしたり、家庭的な雰囲気の中で、子どもが安心して過ごせる居場所づくりを目的としてスタートしました。

毎回 4～5 名の地域の方々がボランティアとして調理、見守りに参加し、一緒にゲームをしたり、ご飯を食べたり、地域の人と子どもたちの交流の場にもなっています。



12 月の開催日には一足早いクリスマス会が行われ、ボランティアのサンタクロースが食堂を訪れ、子どもたちにプレゼントを贈りました。



また、昨年の夏休みには、近隣の学校の 1, 2 年生を招待し、「ぬくまるアカデミー」を開催、「氷と塩とフリーザーバックでどこでも 10 分アイスクリーム」と題して実験を交えながらアイスクリーム作りを行いました。うまくできた子もできなかった子も「美味しい！」と嬉しそうに食べていました。

食事で提供されるご飯はご寄付でいただいたお米を使用しています。最近では「ぬくまる食堂」ののれんを見て食材のご寄付を申し出て下さる方も増えています。

「ぬくまる食堂」が目指す SDGs の目標番号は、11 番の「住み続けられるまちづくりを」です。多くの心ある方々に支えられた「ぬくまる食堂」の存在は、SDGs が 2030 年までに目指し、最終目標となる「誰一人取り残さない」を地域で具現化しようとするものです。



ぬくまる食堂の活動内容は環境学習交流センターにて 3 月中旬頃に展示の予定です

どのように SDGs に 取り組むのか？ 相談コーナーを開設

自分たちの団体が行う活動と SDGs をどのように関連させたらよいのか？

SDGs の浸透とともにさまざまな課題や悩みも生じています。ポスター展示会場では SDGs の 17 の目標と 169 のターゲットの詳細を掲示するとともに、コーディネーターが参加者の相談にあたりました。以下の内容の相談が寄せられました。

① ESD、SDGs が解りづらい一般の方々からの説明を求められる。(同様の質問 4 件)

答 英語を和訳せずに、誰もとり残さない社会形成に向けみんなで考え取組んでいく共通の目標です。省エネや買い物など身近に出来る事を見つけ行動することで目標達成が実現します。

② 盛岡 YMCA SDGs に関心があり、スポーツクラブのユニホームに SDGs のロゴを使いたいがどうか？

答 SDGs のロゴはユニフォームに入れることも自由です。積極的に活用して普及に努めてください。

③ 岩手県ユネスコ協会連盟 岩手で行った ESD・SDGs 勉強会の後、どのような動きをしているのか？

答 ユネスコ活動の柱である「書き損じはがき」「スプーン一杯・・・」「わたしのまちの宝物絵画展」「世界遺産活動」などについて、これまで以上に積極的に取組んでいく中で、17 の目標を取り入れていけばよろしいです。

④ 仙台市文化観光局 SDGs を修学旅行のテーマとして今後受け入れを進めていきたいがどうか？

答 相談というよりもパートナーを探している様子でしたので後日改めて面

談することとしました。



SDGs 相談コーナーにて参加者の質問に答える
コーディネーター

・・・・・・・・・・・・・・・・



編集後記 第 31 号は 12 月 21 日にアイーナで開催された「東北 ESD フォーラム in 岩手」の報告を掲載しました。ESD、SDGs と横文字が並び、訳も「持続可能な開発目標」(Sustainable Development Goals)であり、分かりにくい面があります。講演会場でも参加者から SDGs のもっとわかりやすい言葉がないのか？の質問も出されました。SDGs を多くの人々が“自分ごと”とするためにも、表現は重要です。「持続可能」や「開発」の意味とその解釈もさまざま、複雑なものがあります。一方では、地球温暖化の進行や生物多様性の喪失は待たなしの状態です。2030 年までの残された時間ありません。現状が続くのは危険であり、誰も望んではいません。誰一人取り残さないとする大きな目標のためにも、多くの人々が納得し、かつ私たちが暮らす地域で使える共通の言葉が欲しいとする思いは切実です。会員の皆さまからのご意見もお待ちしております。

ニューズレター第 31 号 平成 31 年 1 月 1 日発行

編集：認定特定非営利活動法人

環境パートナーシップいわて

マネジメント・ガバナンス委員会

〒020-0124 盛岡市厨川 5-8-6

TEL:019-681-1904 mail: kanpai@utopia.ocn.ne.jp